



平成23年度
初山別村・暮らしを支える
ネットワーク研究会
記 録

開催日 平成24年3月5日 13時

会 場 初山別村自然交流センター

主 催 初山別村
初山別村・暮らしを支えるネットワーク研究会
NPO法人グリーンテクノバンク

共 催 日本気象協会北海道支社

平成23年度

「初山別村・暮らしを支えるネットワーク研究会」

目 次

1. 開催要領	1
2. 開会、あいさつ	2
3. 平成23年度事業実施概要	4
4. 研究および事例報告	7
1) 初山別村住民の生活実態と課題に関するアンケート調査結果	7
2) 過疎・高齢化地域における食生活の課題と改善方向	14
3) ICT を活用した教育の実際と効果および課題	19
4) 買い物弱者への支援対策としてのネットショッピングの利用と課題	25
5) 携帯電話による防災および行政情報の伝達システム	30
5. 総括と展望	33
6. 閉会、あいさつ	35

平成23年度「初山別村・暮らしを支えるネットワーク研究会」 開催要領

趣 旨

過疎と高齢化が進む地域に生活する住民の暮らしをトータルにサポートするネットワークモデルを構築し、情報通信のもつ利便性の活用によって生活環境の改善と産業の活性化を目的として、「初山別村・暮らしを支えるネットワーク研究会」が発足して一年が経とうとしている。この間、初山別村ではモバイル機器の配布をはじめとして様々な活動の進展が見られた。今般、それらの活動を総括し、今後の展望を確かなものとするための方針を検討、論議する場として研究会を開催する。

- 開催日時** 2012年3月5日(月)、13時～16時30分
開催場所 初山別村自然交流センター
(苫前郡初山別村字初山別155番地1、電話：0164-67-2136)
参加人数 68名
- 主 催** 初山別村
初山別村・暮らしを支えるネットワーク研究会
NPO法人グリーンテクノバンク
- 共 催** 日本気象協会北海道支社

研究会次第

1. 開 会

- 挨拶 初山別村 村長 宮本 憲幸
研究会 会長 長南 史男

2. 平成23年度事業実施概要 奥 博嗣(初山別村)

3. 研究および事例報告

- 1) 初山別村住民の生活実態と課題に関するアンケート調査結果
佐藤 信(北海学園大学経済学部)
- 2) 過疎・高齢化地域における食生活の課題と改善方向
高野 良子(天使大学看護栄養学部)
- 3) ICTを活用した教育の実際と効果および課題
小松川 浩(千歳科学技術大学グローバルデザインシステム学科)
- 4) 買い物弱者への支援対策としてのネットショッピングの利用と課題
志田 雅章(株式会社恵和ビジネス)
- 5) 携帯電話による防災および行政情報の伝達システム
大島 巖(日本気象協会北海道支社)

4. 総括と展望

- アドバイザー 長南 史男(北海道大学大学院農学研究院)
黒澤 不二男(北海道地域農業研究所)
阪井 宏(北星学園大学文学部)

5. 閉 会

- 挨拶 初山別村 副村長 佐藤 博志

司会進行 水島 俊一(NPO法人グリーンテクノバンク理事)

平成 23 年度 初山別村・暮らしを支えるネットワーク研究会 記録

(平成 24 年 3 月 5 日 13 時、司会進行の水島 (NPO 法人グリーンテクノバンク理事) が開会を宣言し、平成 23 年度初山別村・暮らしを支えるネットワーク研究会を開催した。以下、要約を記載して研究会記録とする。)

開会、あいさつ

【司会進行 水島】



本日はみなさまお忙しいところお集まりいただきまして、たいへんありがとうございます。ただいまから平成 23 年度初山別村・暮らしを支えるネットワーク研究会を開催いたします。私は研究会の事務局を担当しております水島と申します。今日の研究会の司会進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、初めに開会にあたりましてご挨拶をいただきます。初山別村宮本村長、お願いいたします。

【初山別村 宮本村長】



初山別村・暮らしを支えるネットワーク研究会の開催に際しまして、ひとこと開会のご挨拶を申し上げます。

3 月に入りまして少しずつ春の気配を感じる季節になってまいりました。みなさま方におかれましては時節柄、何かとご多用のところ関係機関のみなさまをはじめ地域のみなさまにもたくさんのご出席をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。また長南会長をはじめ黒澤先生、諸先生のみなさまには、たいへんお忙しい中、遠路を本村にお出でいただきましたことに深く感謝と御礼を申し上げます。

住民のみなさんの安全と安心を確保するひとつの手段として、村ではモバイル技術を活用しての生活支援システムの導入実証実験事業を本年度から開始したところです。

すでに携帯電話および教育分野におきましては iPad などの配布を行なって実験事業を開始しています。システム運営にあたりましては、様々な課題について一つ一つ丁寧に解決を図りながら真に住民のみなさ

んのためになる、地域に根ざしたシステムになるよう取り組みを進めてまいりたいと考えております。

ご来村いただきました各先生方に重ねてお礼申し上げますとともに、今日のこの研究会が稔り多いものとなりますことを心から祈念いたしまして、私の開会の挨拶に代えさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

【水島】 ありがとうございます。それでは続きまして、研究会の会長であります長南教授、お願いいたします。

【会長 長南】



こんにちは。初山別村・暮らしを支えるネットワーク研究会の会長を務めさせていただきます長南です。名前の読み方は普通は 99% の方は「ちょうなん」と読んでくれますが正しくは「おさなみ」と言います。北大農学部で農業経済学を専門としています。農学部では共生基盤学専攻に属しておりまして、地域に根ざしてともに生きる方策を基本に北海道の様々なところで交流を図っているところです。

私は出席できなかったのですが、今年の 3 月に第 1 回研究会を開催しました。また今年の 2 月 9 日には農業に焦点を当てた「農業・農村の展望と地域の担い手」シンポジウムを開催しています。本日は暮らしを支えるネットワークをどう作るかという本論をテーマに、多方面にわたる専門研究の事例報告など予定しております。

本日は、年度末のお忙しい時期と存じますが、地元の方々にお集まりいただきました。本当にありがとうございます。

一極集中化ということがよく言われていますが、単に集中と言うよりも若い方が使

う「超」なんかの表現と同じで、すでに集中を超えている、ある専門家に言わせますと超集中になっていると思います。これに対して超分散という言い方がありますが、初山別村の場合は超分散が重要だと思っています。超分散といっても、そんなに難しい話ではなくて、モバイルなどをみんなが持って一人ひとりが発信できるインフラが整備されつつあるということかと思っています。

柳田國男という民俗学者は、農村ということばは明治時代に初めて使われて、その後、大正時代に普及したと言っています。農村に対して反対のことばとして都会、都があります。これがまさしく一極ということで、当時の都とは京都のイメージでして文化発信の地であったわけです。その後、現在に至るまで都会から一極集中的な発信が長い間続けられてきたわけです。

これからは、超分散が鍵になります。分散した小さな村からでも、色々な情報を容易に発信できる環境が整備されてきました。

私としては個人的な意見として、その方向を大いに期待しているわけです。初山別村がiPadを子供たちに、また今まで持ったことのなかった人たちにモバイルを持ってもらう、まず使ってもらうという試みをはじめられました。一步を踏み出すということで、先ほど村長さんが「実証」というお話をされましたが、大変に優れた方向であり、この試みに敬意と大きな期待を持っています。

本日はそれぞれの専門家の先生方から非常に多くの話題を提供していただきます。昨年3月に開催された研究会の場でも、ある程度の情報交換をされて、ご理解いただいていると思います。本日は、さらに村のみなさまからも様々なご意見、ご質問をいただき、文字通り村のネットワークを作るという次の一步につなげる、さらに一步前に進める機会になればと願って会を進めたいと思っています。どうぞよろしく願います。

(次に初山別村経済課奥主幹から、平成23年の活動経緯が報告された。)



会場風景

